ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

新しい時代に向けて

㈶日本ハンドボール協会副会長　山下　泉

新しい年を迎え日本ハンドボール界は休む間もなく次の目標にむけてスタートをしなくてはならない。先ず２月の男子世界選手権アジア予選（カタール）、７月女子世界選手権アジア予選（広島）で出場権を獲得することである。

昨年９月のアテネ五輪予選、多くの日本国民の「夢と希望の実現にむけた熱い想い」もあと一歩のところで応えることが出来なかった。男女ともライバルの韓国に引分けで善戦したものの、あと一点の重みを痛感した大会であった。地元開催、多くのサポーター等あらゆる有利な条件を整えた戦いであったことを考えれば、この敗戦を真摯に受け止め次のステップにすることが重要である。

これまで日本のスポーツ界は企業スポーツ、学校スポーツの二本柱で発展してきたが、この数年スポーツ環境が激変したと言える。その例を挙げると、学校スポーツである早稲田大学では、ラグビー部を中心に早稲田大学スポーツ振興組織「ワセダクラブ」を設立した。日本経済新聞（11/23）によると、その趣旨は、企業スポーツと同様に経済環境の変化によりＯＢの寄付金に頼っていた運営資金の確保が困難になり、その上少子化による部員数の減少が重なり、このままでは生き残りが出来ないと判断した。ラグビーを中心にスポンサー企業や地域と連携したクラブを設立した。「ワセダ」というブランドを使用することにより企業からの支援を受け、大学の施設を地域の子供達に提供し、指導育成することで地域と交流を深める取り組みをするという。新しい大学スポーツの取り組みのあり方が伺うことが出来る。

一方企業スポーツはいまだ厳しい環境におかれている。長らく低迷した企業の業績も上昇の気配を感じるが、好況業種といわれる企業でも突然の休、廃部が後を断たない。企業が所属する地域で愛され、支持され、企業は地域にどういう形で貢献できるかという使命があり、それが企業の理念である筈だ。スポーツの持っている地域貢献、青少年の健全化、スポーツがもたらす感動、勇気を多くの人が実感し、生きる為に無限の可能性を秘めていることに気付かない経営者はいないと思われる。

ハンドボールでも、日本リーグ女子の強豪「シャトレーゼ」が今季限りで20年の幕を閉じることになり誠に残念である。現在、山梨県教育委員会を中心にクラブ化を目指して努力しておられる状況であり、是非実現してほしい。日本協会でも出来る限りの支援を考えている。

最近全国の自治体で「クラブ」づくりを模索しており、総合型スポーツクラブが目標である。しかし国と同様、地域自治体はどこも赤字財政状況であることを考えれば、行政に資金の支援を頼らずに、施設の提供と人集めを依頼することがクラブづくりにとって重要なことである。学校の週休二日制で土曜､日曜の子供達の居場所づくりはどうするのか。力を持て余している子供達に企業スポーツ経験者が指導するクラブは魅力あるものであり、クラブは学校と企業、行政が三位一体となり連携、協力関係を築いてこそ成功するものである。

朝日総研リポート10月号で広島メイプルレッズのクラブ化について特集記事が載っている。多数（約20社）の企業が支援する「みこし型クラブチーム」の成功事例として紹介された。チームは所有しないが協賛する企業、選手の受け皿としての企業、又現物支給で協力する企業等で構成されており、まさに地域の「おらがチーム」としての新しい型として注目されている。

近年スポーツ活動は多様化しており、ハンドボールも例外ではない。日本リーグの中にも契約選手が多数活躍している。社員としては仕事をせず、ハンドボール活動のみをするのが契約選手である。アジアの各国の選手はプロ化が進んでおり、自国にプロリーグがない為、ヨーロッパのリーグで活躍している現状を考えると、日本も海外で活動する選手が多数出てくることが期待される。アテネ強化で実施した海外留学制度はそのキッカケとなっている。

早い時期に日本でもプロリーグの誕生が必要となるだろう。多くの課題はあるが、オリンピック出場の実現へ向け考えなくてはならない時がきているように思える。４月、ソウルで東アジア連盟主催の日中韓のトップチームのリーグ戦が開催される。目的はアジアが強くなってオリンピック出場枠の拡大に繋がればと考えている。

安藤純光氏、瑞宝中授章 授章される

安藤純光氏

元（財）日本ハンドボール協会専務理事で、元法政大学教授の安藤純光氏が、平成15年秋の叙勲におかれまして瑞宝中授章を授章されました。心からお祝い申し上げます。

ハンドボールとの関わり

氏は昭和４年神奈川県生まれで、ハンドボールとは終戦後間もなく出会い、今日まで50数年にわたり関わりを持たれてきました。選手時代は法政大学で関東学生リーグの上位進出を果たし、社会人としては国体チームにも参加されております。昭和46年には国際審判員資格を取得され第１回アジアハンドボール選手権大会（昭和52年、クウェート）など多くの国際大会に審判員として選出され、国際審判員の草分け的存在であり、日本開催の国際競技大会に於いては審判部長として大会成功に導いています。

日本協会との関わり

日本協会へは昭和30年審判部ルール研究委員会委員として関わって以来、昭和32年理事、昭和34年常務理事などに就任されています。特筆すべきは昭和56年３月の財団法人設立に際して発起人委員となり多くの人脈を活用し、基金集めなどに全国を奔走し法人化に大きく貢献されました。同年４月、財団設立に伴う役員精鋭化の中、それまでの実績により引き続き常務理事に選任され競技委員長（競技担当理事）としてハンドボール競技の一層の普及・振興に心血を注がれました。

昭和62年４月には専務理事に就任され、日本協会設立50周年記念事業を手がけ、外国のトップチームを招聘しての「ジャパンカップ87」を開催し成功に導くなど、組織を挙げての取り組み、ハンドボールの国際競技力の向上と普及・発展に多大な貢献をされました。

日本リーグの発足と発展

また、国内トップリーグの設立は普及・強化に不可欠と判断し、昭和51年９月の日本リーグの立ち上げに際しましては、４月より運営委員会副委員長としてその発足に大きく手腕を発揮されました。昭和54年には日本リーグ運営委員会の委員長に就任し、その充実、強化に一層尽力されました。

ハンドボール競技普及のために

昭和30年４月法政大学ハンドボール部監督に就任し、学業と競技の両立を目指しながらチームを指導され、オリンピック選手、ナショナルメンバーを含む多くの選手を育成された。

また、日本学生ハンドボール連盟、関東学生ハンドボール連盟及び東京都ハンドボール協会の役員としても永年にわたり尽力され、日本協会、地域協会、学生連盟など、それぞれの役割を有する組織との連携強化を通して、我が国ハンドボール界の組織的な充実と発展に大きな功績を残されました。

今後とも健康に留意され、益々のご活躍をお祈り致します。

速報 平成15年度第55回全日本総合ハンドボール選手権大会

男女とも
地元広島（男子湧永製薬、女子広島メイプルレッズ）が勝利

第55回全日本総合ハンドボール選手権が平成15年12月11日（水）～21日（日）まで広島県東区スポーツセンター、中区スポーツセンターを会場に開催された。

組み合わせ（平成15年12月号、20頁参照）は、昨年より学生（全日本学生選手権）、一般（ジャパンオープントーナメント）の勝者が日本リーグ勢に挑戦し真の日本一を決定するために変則となっている。男女とも準決勝の4チームにはシードされた日本リーグ上位4チームの戦いとなった。

大会は土曜日に女子が、日曜日に男子が決勝戦を行った。日曜日の男子決勝戦は例年の通りNHK総合で全国中継があり、今年は土曜日の女子決勝戦もNHK広島放送局で、広島県内ではあったが生中継で放送された。

男子は湧永製薬が13年ぶり12回目、女子は広島メイプルレッズが5連覇、6度目と地元広島勢のアベック優勝となった。

（詳しい結果はスコアールーム②参照、優勝チーム監督のコメントは次号に掲載）

男子

男子は2回戦で中部大学が北陸電力に延長戦、日本体育大学がホンダ熊本に前半リードするなど学生勢の健闘が見られたが、最後は日本リーグに振り切られる形となった。決勝は昨年と同じ顔合わせで、湧永製薬がＧＫ坪根の好セーブで終始主導権をとる形でゲームを支配し、後半は最大7点のリードを保って快勝した。

優勝を喜ぶ湧永セブン

ＭＶＰの坪根敏宏選手

女子で目立ったのは男子同様に学生の東京女子体育大学であった。1回戦では日本リーグのＨＣ名古屋に25－19と快勝した。また今シーズンで20年の活動に幕を閉じることの決まっているシャトレーゼの意気込みは激しく、2回戦東京女子体育大学に29－13、準決勝北國銀行28－18と快勝し決勝戦に駒を進めた。

広島メイプルレッズは大会直前に監督兼任の林五卿（ｲﾑ･ｵｷｮﾝ）、呉成玉（ｵ･ｿﾝｵｸ）を韓国代表として世界選手権出場で欠くハンデを負って臨んだ大会であった。しかしながら日本人勢だけで静岡国体の優勝を勝ち取った自信がチームの自信となっていた。

決勝戦は有終の美を飾るべく臨んだシャトレーゼと、現在波に乗っている広島メイプルレッズの激突となった。前日のオムロン戦ではミスが目立ち延長戦でかろうじて勝ち上がったメイプルレッズは開始早々4連続得点で主導権を握る。その後は終始メイプルレッズのペースで終わってみれば27－16と、韓国人選手と、日本人選手の息のあったメイプルレッズの快勝で終わった。

ＭＶＰの杉本絵美選手

第16回世界女子ハンドボール選手権大会

健闘、しかし世界の壁は厚かった

カザフスタンの突然の世界選手権辞退に伴い日本協会に代換え出場の連絡が入ったのが11月12日、大会まで１ヵ月を切っていた。日本リーグ開催中で大会準備も十分できぬ中、代表チームが結成された。神戸で失ったオリンピック出場権の再トライアルとして選手団はクロアチアへと向かった。結果は予選リーグ２勝３敗で、順位決定リーグには進めなかったが神戸で得た次への感触を掴むことの出来た大会であった。

また、９月のアジア予選（神戸）でオリンピック出場権を逃した韓国は急遽、イム・オキョン、オ・ソンオク（共に広島メイプルレッズ）を招聘し５位以内に与えられるオリンピック出場権取りに必勝態勢で臨んだ。韓国は準決勝でハンガリーに敗れたものの、３位決定戦ではウクライナを破りアテネオリンピックへの出場権を手にした。

なお、大会順位は以下の通り。

１位	フランス	２位	ハンガリー	３位	韓国
４位	ウクライナ	５位	スペイン	６位	ノルウェー
16位	日本				

監督のコメント

第16回世界女子選手権出場のために 11月30日、成田を出発

日本代表監督　**西窪勝弘**

日本リーグ開幕中で、代表チームとしては準備不足の出発となった。

クロアチアのカルロバッツ、旧ユーゴ（連邦共和国）、私自身２度目の訪国であるが、１回目のユーゴとの変貌ぶりは驚きであった。明るい国、豊かな国に変わりヨーロッパの仲間入りをしたなという強い印象を受けた。しかし、ここまで来るには内戦という悲劇もあったことは我々の記憶にもまだ鮮明に残っている。美しく整備された街並みに弾痕の跡、そして爆弾投下された教会等はそのままの状態で保存されていた。その様な街並みのカルバロッツ地区で私達Ｃグループの予選ラウンドが開始された。

成績は別項を参照して頂くとして、ここでは、私自身が感じたことを書きたいと思う。

まず、今回は2002年の世界選手権アジア予選（カザフスタン）で４位という成績で今回の世界選手権出場権を逃してしまったが、直前のカザフスタンによる辞退での代替えでの出場となった。

アジア選手権後、再度強化をはかり2003年９月のアテネ予選に臨み、接戦はするもののオリンピック出場権を勝ち取ることが出来ず代表チームは解散した。しかし、今回の世界選手権で再度アテネオリンピックへの夢が繋がった。

しかし時間的余裕がなく、何一つ練習することなくクロアチアに乗り込むこととなった。12月２日～７日まで予選ラウンド、対戦国はチェニジア、アルゼンチン、ルーマニア、ノルウェー、ウクライナとのリーグ戦、結果は２勝３敗という結果であった。しかし、日本の戦いは地元新聞にも日々掲載され、多くの声援を頂いた。その表現は、小兵が大型選手をマジックにかけるスピード感あふれるハンドボールだと称賛を浴びた。特に田中美音子、稲吉のトリッキーな動き、早船のアクロバティックなシュート、そしてスピード感の中での速攻と、日本代表が従来実践されていた姿に戻ったような気がした。

各国の監督も、どの様な練習であのようなスピードが出るのか等、数多くの質問を受けた。それは、アテネオリンピック予選に向けての長期合宿で個々がメンタル面で強くなったこと、長い時間をかけて戦術的習熟度をアップさせたことによると思う。それが、今大会事前合宿もなく臨んだにもかかわらずパフォーマンスできたことに繋がり、選

（写真提供：村松誠参事）

手個々の体に強く植え付けられたものと痛感している。

得点力に関しては、今までにないレベルアップで前回、前々回を上回っていた。しかし、ＤＦ面でアテネ予選の要となった選手が不参加となった分、守りきる体力不足が敗因のひとつでもあった。

一つの目標に向かって短期間でなく、長期的計画の基で階段を登る事の大切さ、他国との試合を数多く経験させること、U-16、U-19の若い世代での国際試合の経験が選手個々の自信になり、それが日本代表に繋がることは間違いないと痛感した大会でもあった。併せて、個々の自立がチームの自立に繋がり、それが日本代表の自立に繋がると信じてやまない大会でもあった。

急な出場で日本リーグ運営、各チームには多大なるご配慮をいただき、またこの様な環境を作っていただいた関係各位に感謝の気持ちで一杯です。

選手個々の頑張りに感謝し、大会報告と致します。

参加者名簿

団　　長	渡邊佳英	㈶日本ハンドボール協会
監　　督	西窪勝広	㈶日本ハンドボール協会
支援役員	栗山雅倫	㈶日本ハンドボール協会
トレーナー	皆川直哉	オレンジカウンティー

	氏　名	所　属
GK 1	田中　麻美	北國銀行
CP 2	森本　美奈子	㈶倉敷市スポーツ振興事業団
CP 4	小野澤　香理	北國銀行
CP 5	田中　美音子	ソニーセミコンダクタ九州
CP 6	大石　真代	オムロン
CP 7	東濱　裕子	オムロン
CP 8	稲吉　希穂	シャトレーゼ
CP 9	佐久川ひとみ	オムロン
CP11	早船　愛子	シャトレーゼ
GK12	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ九州
CP13	金城　晶子	オムロン
CP14	冨田　有美	オムロン
CP18	上町　史織	北國銀行
CP19	羽出重　真紀	ＨＣ名古屋
CP20	青戸　あかね	広島メイプルレッズ

日本チームの戦いの軌跡

◆ 第1日（12月2日㈫）：予選リーグ第1戦

日　本 30（15-12, 15-12 ）24　チュニジア

国内での調整がなく、不安を抱えながらの第１戦、チュニジアとの対戦。

立ち上がり、オープニングゲームということもあり、硬さの隠せない両チームの攻防で幕を開けた。しかしながら、日本は早船の積極的なシュートで、若干ながら優位に試合を運び、10分には７－４の３点をリードする。ここでチュニジアのタイムアウト、早い手当てでチュニジアは冷静さを取り戻し、想像以上に高い身体能力を生かしたパワフルなカットイン、ロングシュートで食い下がる。対する日本も、青戸のポスト、稲吉、佐久川の両サイドの活躍で踏ん張り、前半は15－12の３点差で折り返す。

後半開始早々、チュニジアの攻撃パターンを掴み始めた日本は、積極的なディフェンスの狙いが機能し始め、速攻につなぐことに成功。後半半ば過ぎに、８点差まで開く。タイムアウトで一息ついたチュニジアは、得意なアグレッシブなスタイルのDFに望みを掛け、必死に追いすがる。しかし、時既に遅し、日本が佐久川の速攻でたたみかけ、30－24で初戦の勝利を飾る。

【日本の得点】 佐久川７、早船７、稲吉６、青戸４、田中２、金城２、森本１、大石１

◆ 第2日（12月3日㈬）：予選リーグ第2戦

日　本 24（13- 7, 11- 9）16　アルゼンチン

ウクライナの思わぬ善戦で、混沌としてきたＣグループにて、アルゼンチンとの第２戦。

強行スケジュールで、疲労の見え始めた立ち上がり、思うようにペースがつかめない。相手の積極的な防御を見越しての攻撃戦術は、ねらい目こそあるものの、シュートミス、イージーなパスミスで、相手速攻を許すこととなる。しかしながら、田中美音子の好リードから、青戸のポストが機能し、苦しい場面を凌ぐと、同じく田中美音子のカットインで、ペースを掴み、前半は６点のリードで折り返す。

後半に入り、何とかスタートで突き放したい全日本であったが、対するアルゼンチンは、ダブルポストからパワーを利用した攻撃で、日本の退場を誘発する。一時は３点差まで詰め寄られ、ハッとする場面を迎えたが、稲吉の視野外のカットイン、佐久川の速攻等で、チャンスを広げ、守っては、田中麻美が本来の力を発揮し、粘るアルゼンチンを８点差で下した。

苦しいながらも何とか勝利を得たが、やはり体力面、形態面でおとる日本チームの戦い方を工夫する必要性を、あらためて感じさせられた試合であった。予選ラウンド残り３試合、いずれもヨーロッパの強豪チームへのチャレンジであるが、臆することなく100％のファイティングスピリットで臨みたい。

【日本の得点】早船８、青戸４、佐久川４、田中３、稲吉２、東濱１、金城１、冨田１

◆ 第３日（12月４日㈭）：予選リーグ第３戦

ルーマニア　41（19-14, 22-16）30　日　本

互いに本戦ラウンドのかかった一戦。ルーマニアは持ち前のパワーとスピードで、出だしから圧倒的な展開を予想させる立ち上がりであった。対する日本も、田中の好リードから、青戸へのポストプレーにチャンスを見出し必死に食い下がる。10分過ぎまでは互角の展開で進むが、Ｃグループでも屈指のスピードを生かしたルーマニアの速攻で、20分ごろには７点差をつけられる。その後早船の活躍もあり、前半は何とか５点差で折り返す。

失点は許しすぎたものの、得点のペースとしては上出来であった日本は、何とか後半の巻き返しを図りたいスタートであった。しかしながら、ここでルーマニアの怒涛の速攻を許し、後半６分には12点差まで一気に開く。

このまま離される一方かと思われたゲーム展開であったが、交代メンバーらの踏ん張りで、それ以上の点差までは開かなかった。

ディフェンスのアタック面は相手攻撃を止めることはできた。しかし、最終的には体格面に圧倒する勝負が展開される場面が否めなかった。得点の30点は、田中美音子の判断力でよく対応し、評価できる。やはり大型選手をいかにディフェンスの機動力で止めていくか…は、永遠のテーマである。しかし、最後まであきらめずに戦った選手には感謝したい。予選ラウンド残り２試合も同様のテーマを抱えることとなるが、臆することなく戦い抜きたい。

【日本の得点】早船10、田中６、小野澤４、金城３、青戸３、稲吉２、佐久川１、羽出重１

◆ 第４日（12月６日㈯）：予選リーグ第４戦

ノルウェー　33（18-13, 15- 6）19　日　本

この試合も本戦ラウンドがかかった一戦。ノルウェーは初めてスタートからフルメンバーで臨んできた。立ち上がりから、ノルウェーの体格を生かしたプレーに苦しみながらも、田中、早船、稲吉を中心に良く得点を稼ぎ、何とかくらいつく展開。日本は、スピーディーな攻撃でしぶとく踏みとどまるものの、相手攻撃を止めることに苦労し、なかなか点差を縮めるができない。

しかしながら、前半残り10分、６点差をつけられたあたりから、ディフェンスが機能し始め、前半は13－18の５点差に踏みとどまり、選手たちの闘志を十二分に発揮する展開で折り返す。

後半に入り、やはりトータル的な体力差から徐々にゲームが動き始め、相手のパワフルなプレーに翻弄され始める。結果的には19－33という結果に終わり、ノルウェーに屈することとなった。

結果は残念であったが、ムスタファ会長、ミュルマター氏の直々のお言葉や、ＩＨＦ役員等から、高い評価を受けたように、日本の持ち味を選手は良く発揮している。しかし、現時点で、やはりヨーロッパに追いつけない部分は、これまでに幾多も経験してきたテーマと同様のものを抱えている。残り一試合、現在グループトップのウクライナとの対戦ではあるが、我々の大きな課題に臆することなくチャレンジしたい。

【日本の得点】早船６、稲吉４、田中３、金城３、佐久川２、森本１

◆ 第５日（12月７日㈰）：予選リーグ第５戦

ウクライナ　39（18-19, 21-11）30　日　本

予選リーグ最終戦、ウクライナとの対戦。Ｃグループトップのウクライナが相手とあって、大方の予想は一方的なゲーム。しかしながら、今大会を通して機能しているオフェンスで、田中、早船を中心に粘り、前半10分、ウクライナに６－10と４点をリードされながらも、こちらもバランスのよくなった速攻で対抗し、一時は４点リード、前半を19－18の１点リードで折り返す。

ここまで課題とされた後半のスタート、落ち着いたスタートを見せたものの、対応してきた相手オフェンスに翻弄され始めると、日本の攻撃にも狂いが生じ始め、相手の連続速攻を許す。徐々に離されながらも交代メンバーらが奮起するが、39－30でタイムアップ。残念ながら予選敗退となった。

今大会を通して、得点力が数段に上がったことは大きい成果と言えるだろし、周囲の評価も高かった。しかしながら、今まで以上にシビアになったパッシブの基準により、アップテンポのゲームを余儀なくされたことで、後半の体力差、ヨーロッパのパワフルなオフェンスに対するディフェンスは、少なくとも日本女子の課題であることは明らかに確認された。今後も日本でのトータル的な強化に向けて、最善の努力を尽くしたい。準備期間がないながら、周囲から賞賛を得た選手たちの活躍にはエールを送りたい。

【日本の得点】早船９、青戸６、稲吉４、金城４、田中３、佐久川２、冨田１、上町１

ＪＨＬチャレンジリーグ開催

日本リーグ男子１部・２部チームと学生チームとの交流戦「チャレンジリーグ」を下記日程にて開催します。

地区	参加チーム	日程・会場	時間	対戦	
関東地区	筑波大学 順天堂大学 国士舘大学	２／１（日） ひたちなか市総合体育館	10：00～ 14：00～	ＨＣ東京ー筑波大 大崎電気ー順天大	JHL12：00～ シャトレーゼー北國銀行
	大崎電気 ＨＣ東京	２／11（水） 吉川市総合体育館	10：00～	大崎電気ー筑波大	
		２／22（日） 駒沢屋内球技場	16：40～	ＨＣ東京ー国士舘大	
東海地区	中部大学 名城大学	２／20（金） 岐阜アリーナ	13：00～ 15：00～	トヨタ車体ー中部大 大同特殊鋼ー名城大	
	大同特殊鋼 トヨタ車体	２／21（土） 岐阜アリーナ	13：00～ 15：00～	トヨタ車体ー名城大 大同特殊鋼ー中部大	
関西地区	大阪体育大学 大阪経済大学	２／14（土） ホンダアクティブランド体育館	14：00～ 16：00～	ホンダー大体大 湧永製薬ー大経大	
	ホンダ 湧永製薬	２／15（土） ホンダアクティブランド体育館	13：00～ 15：00～	湧永製薬ー大体大 ホンダー大経大	
男子２部	金沢大学 大同工業大学 東北福祉大学 中・四国地区代表	２／28（土） 北電体育館	15：00～Ａ面 15：00～Ｂ面 16：30～Ａ面 16：30～Ｂ面	北陸電力ー金沢大 大阪ガスー中・四国地区代表 トヨタ自動車ー大同工大 豊田合成ー東北福祉大	高校生対象 指導会 12：00－14：00
	北陸電力 トヨタ自動車 大阪ガス 豊田合成	２／29（日） 北電体育館	10：00～Ａ面 10：00～Ｂ面 11：30～Ａ面 11：30～Ｂ面	トヨタ自動車ー金沢大 大阪ガスー東北福祉大 北陸電力ー大同工大 豊田合成ー中・四国地区代表	

◆ハンドボール・アラカルト◆　切手に見るハンドボール（4）

2004年はオリンピックの年、今号より連載でオリンピック切手を掲載していきます。

ハンドボール競技が初めてオリンピックで採用されたのは1936年のベルリン大会で、当時はもちろん11人制。ドイツ、オーストリア、スイス、ハンガリー、ルーマニア、アメリカの６カ国が出場し、地元ドイツが全勝で優勝しました。ベルリン大会の切手ではハンドボールの図案は採用されていません。切手①はベルリン大会聖火リレーの図柄、今ではすっかりおなじみの聖火リレーはベルリン大会から行われました。

第二次世界大戦後、ハンドボール競技が復活したのは1972年のミュンヘン大会。開催は男子のみで地元東西ドイツをはじめ16カ国が参加しました。優勝はユーゴ、準優勝チェコスロバキア、３位はルーマニア、日本は11位でした。監督は村田弘氏、コーチ竹野奉昭氏、選手はコーチ兼ＦＰ近森克彦氏、ＧＫ本田洋氏、ＦＰ木野実氏、野田清氏など。

ミュンヘンオリンピックのハンドボール切手は数種類発行されています。今回はその中から東ドイツ（切手②）と、ルーマニア（切手③）を紹介します。ルーマニアではメダル獲得した競技の切手が大会後発行されます（切手④）。

切手①

切手②

切手③

切手④

第58回国民体育大会秋季大会

NEW!!わかふじ国体 大成功に終わる

「ＮＥＷ‼わかふじ国体」をテーマに第58回国民体育大会秋季大会が10月26日（日）～30日（木）まで、静岡県静岡市（静岡地区、清水地区）で開催された。成年男子三重県、成年女子広島県、少年男子茨城県、少年女子愛知県が優勝、喜びの声を地元県協会、開催清水市の声と共に紹介致します。尚、試合結果は先月号スコアールーム掲載済み。

静岡県協会の声

国民体育大会を終えて

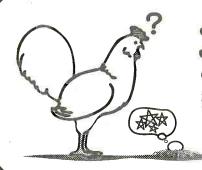
静岡県ハンドボール協会理事長　久保田龍治（静岡市立清水商業高校）

46年振りに行われる国民体育大会のリハーサル大会として、昨年ジャパンオープン・トーナメント大会が開催された。この段階である程度大会運営について目処がつきホットしたことを思い出す。

開催地静岡市ハンドボール競技担当の大村氏、県協会から出向の小松、油上両氏の協力のもと、日本ハンドボール協会に指導を受けながら、県協会総動員で準備に入った。全試合を体育館で実施する基本方針を立て、６会場６面にカラーコートを貼り、電光掲示板を準備する等、会場の設営が計画されていった。競技役員は、各会場主任を中心に仕事を分担し、補助員の指導など、オフィシャルが原因で試合が中断されることのない様研修を繰り返した。

国民体育大会を迎えるに当たり、３つの目標を持って臨んだ。１つは強化、少しでも得点がとれること。２つ目はオフィシャルの充実で、３つ目に選手・役員に気持ちよく帰ってもらうための接待である。

結果としては、成年女子だけであったが、何とか得点をとることが出来たこと、大きな怪我もなく、大きなミスもなく大会運営が出来た。まずは本県にとって成功といえるだろう。これは、県内ハンドボール関係者の精一杯の努力の結果だと感謝の気持ちでいっぱいである。この大会を通じて、本県では普段見ることの出来ない高度なテクニックを使ったゲームを見ることが出来、指導者たちにとっては大きな糧を得たと思う。また、成年はさておき、少年男女の上位進出を果たした県の内情を知る機会となり、本県も小学生から指導に着手する必要性を痛感させられた大会となった。

大会が終わった今こそ、県内ハンドボールの関係者が心を一つにし、強国静岡を蘇らせるべくスタートする機会であり、そう有ってこそ、国民体育大会を開催した価値があると思っている。もちろん、簡単に強化できるとは思わないが、指導者の根気と日々の努力と研究で実現できるよう期待している。

最後に静岡国体にご支援、ご協力いただきました多くの方々に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

地元静岡市の声

「ＮＥＷ！！わかふじ国体」を終えて

静岡県静岡市健康文化部静岡国体推進課長　芦沢　强

第58回国民体育大会秋季大会ハンドボール競技会(NEW！！わかふじ国体)が、平成15年10月26日から５日間、静岡県静岡市で開催した。一昨年行ったリハーサル大会（第７回ジャパンオープン・ハンドボールトーナメント）は静岡市と清水市の共催であったが、国体は昨年４月に両市が合併し新しい「静岡市」としてのイベントであった。

競技会場６会場、練習会場13会場の施設で、日本ハンドボール協会、静岡県ハンドボール協会、静岡市実施本部、市民協力員が協力して運営を行った。

大会運営の様子

日本ハンドボール協会、静岡県ハンドボール協会、静岡市実施本部、市民協力員が協働で運営を行った。各団体がうまくかみあって運営を行うことが一昨年のリハーサル大会からの課題であったが、各々のスケジュール調整が難しい中、大会直前に一度打合せを行い本大会に臨んだ。打合せ不十分ではあったが、運営員個々が現場での局面において大きな視野で判断をしたため、特に大きなトラブルもなく大会を終えることができた。

地元ボランティアの活動

本市では、ハンドボール競技以外にも６競技会を開催したため、公募の「チームふじっぴー」では対応しきれず、競技会場周辺の町内会等に応援を依頼し運営を行った。業務は実施本部員と協働で行い、内容は受付、来賓接待、会場整理が主なものであった。また「花いっぱい運動」の一環として学校等諸団体が花プランターを育成し、大会中に会場周辺に設置することにより大会を盛り上げることができた。また、「国体クリーン作戦」では、他県から来る選手、役員を気持ちよくお迎えするため、多くの市民の協力を得て、駅及び競技会場等の周辺の清掃活動を行った。

地元と選手との交流

地元と選手との交流の場としては、競技会場の休憩所、宿泊施設等が挙げられるが、本市においては民泊を実施しなかったため、交流の場面が少なかったようだ。ただ、今回日本ハンドボール協会が売店を設置し、ここで協会と選手がハンドボールの普及・振興を行ったことで地元・選手・協会がふれあう場所となり、すばらしい光景を目にすることができた。

今後の課題

国体という大きなイベントを行い、特に感じたことは「輸送・宿泊・食事」等、人間が基本的に欲求する項目の充実が大切だということでした。競技運営の充実はもちろん一番大切なのですが、大会中私達の耳に入ってくるトラブルは、「車を止められない」「支給弁当をもらえない」等基本的な部分の話が多かった。大会運営者として十分な配慮ができず、まだまだ勉強不足でした。

また、静岡県のハンドボール競技につきましては、本大会は十分満足できる結果ではありませんでしたが、これを機にますますの発展を目指し、次回の大会に期待したい。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり多大なるご支援、ご協力をいただきました（財）日本ハンドボール協会、静岡県ハンドボール協会、関係諸団体の皆様に深くお礼と感謝の意を込めましてご挨拶とかえさせていただきます。

成年男子：三重県

わかふじ国体優勝

ホンダハンドボール部 ヘッドコーチ　荒木誠司

日頃よりホンダハンドボール部に対し暖かいご声援を賜りまして、誠に有難うございます。

1960年創部以来、過去の国民体育大会では、沖縄国体・神奈川国体での優勝に続き、第58回静岡国体で３度目の優勝を果たす事が出来ました。開催前からチームは優勝という目標しか念頭にありませんでした。何故なら県を代表しての大会である事、またH10年開催の神奈川国体以来、幾度も度重なる悔しい思いを何とか打破して５年ぶりに三重県に優勝を持ち帰ろうという強い気持ちで練習に励んできたからです。試合を勝ち進むにつれてチームは勢いを増し、選手一人一人がやるべき事をきっちりやり、準決勝、決勝戦ではとても良い雰囲気の中プレーしていた様に感じます。最後まで誰一人気を抜くことなく如何にして勝利するかだけを考えプレーに集中していました。大会を通じて選手全員本当によくや

ってくれたと思います。

今後もタイトルのかかった試合が続きますが、自分達のチームのプレイスタイルに自信を持ち優勝という栄冠を目標に今後もチーム一丸となって頑張ります。

最後に関係者各位、応援して下さった皆様にこの紙面をお借りしまして感謝申し上げます。本当に有難うございました。

成年女子：広島県

わかふじ国体初優勝の広島成年女子

総監督　平田幸男（広島メイプルレッズ）

今年のチームはやる気がみなぎっていました。特に東京、山梨、熊本戦との連戦では、よく耐えて夢を叶えてくれたと思います。優勝の瞬間はベンチ、コートの選手、応援を頂いた広島県協会、県市を含む多くの関係者と抱き合い歓喜に噎び、達成感に満ちました。

勝因は持久力・集中力・技能の三拍子が噛み合って機能していた点と、ベンチと選手の結束力だと信じます。

印象に残った試合は決勝の熊本戦で、立ち上がり４連続得点を与えて前半戦を８－12の劣勢に立ってしまいました。後半の10分には広島の土屋、大前、杉本の活躍で14－14のタイとするも、熊本は冨田、安心院で逃げ切ろうとする。すかさず広島は岩本、大前の速攻が決まり逆転に成功。粘る熊本は、冨田、金城らで再逆転し勝負あったかに見えたが、残り７分になり広島は守りの要、青戸、川本、守護神の浅井らの堅守がさえて速攻に転じ、杉本、岩本がチャンスを冷静に決め勝利を確実なものとした。

今後の課題は国体初優勝への道程を全員が大切にし、より磨きをかけ、残る全日本総合、日本リーグでも頂点に立つこと、選手へは「日本の選手のみで夢が叶えられたことを誇りとし、この醍醐味を大切に」と言いたい。

チームは平成６年にイズミ女子ハンドボール部として誕生。以来今日までに全日本実業団、全日本総合、日本リーグ等で計17回の優勝を果たす。平成13年、企業スポーツから地域密着型広島女子スポーツクラブ・メイプルレッズと名称を改め、協賛各社とサポーター会員の応援を頂き特定営利活動法人（ＮＰＯ）組織での活動を行い、地域に親しまれている。

最後に各方面からの応援に感謝いたしお礼を申し上げ、終わりとします。

少年男子：茨城県

国体優勝報告

茨城県ハンドボール協会強化部長・少年男子監督　滝川一徳（藤代紫水高校教諭）

お陰様で、この度の第58回国民体育大会で県勢初優勝を飾ることが出来ました。

決勝戦、残り90秒５点リード。私がタイムアウトを申請し、選手が涙ながらにベンチに戻ってきました。応援席では「茨城県民の歌」の大合唱。「まだ終わっていないぞ」、そう選手に言い聞かせる私も涙が止まりません。一昨年、地元開催インターハイ以来、約１年間の苦労が報われ本当に嬉しい瞬間でした。

大きな期待を寄せられ、たくさんの方々に支えて頂いた地元インターハイでは無念の３回戦敗退、突然の人事異動により選手と共に涙した３月。藤代紫水高校に移動してから毎日練習を繰り返す日々、その練習に初心者ながらもついてきてくれた紫水高校の選手、練習時間までのポッカリ空いた時間をしっかり自覚し頑張ってくれた伊奈高校の選手、マネージャー。たくさんの励ましを頂いた大学の先生方や合宿でお世話になった先生方、保護者や両校の理解と協力の下成し遂げ

られたこの瞬間は、たくさんの思い出が胸を熱くしてくれました。

伊奈高校在職中の10年間「苦しい時こそ頑張れ」と選手に常々言ってきましたが、この一年間は自分自身にも言い聞かせて頑張ってきたつもりです。その思いが乗り移ったように接戦に次ぐ接戦の中、苦しい場面を持ち前の力強いＤＦからの速攻で切り抜け、伊奈高校在任中獲ることの出来なかった唯一のタイトルである国体優勝をプレゼントしてくれた選手に感謝の気持ちで一杯です。

平成８年の全国高校選抜優勝以来、本年まで８年連続して小・中・高のいずれかで茨城県男子チームが日本一を獲得し続けております。一貫した強化体制を今後も継続し、来年以降も日本一チームを輩出できるよう、たくさんの方々のご指導を賜りながら努力していく所存です。関係、皆様方のこれまでの温かいご支援とご協力に深く感謝致しますとともに、今後、より一層のお力添えを頂けますよう、心からお願いし、優勝の報告とさせて頂きます。

本当に有難うございました。

少年女子：愛知県

国体少年女子優勝を振り返り

愛知少年女子監督・愛知県高体連ハンドボール委員長　山田正人（愛知商業高校）

愛知少年女子チームは国体に選抜チームとして参加し７年ぶり７度目の優勝の栄誉に輝くことが出来ました。また、愛知県はハンドボール競技総合３年連続優勝を飾るとともなり二重の喜びとなりました。これもひとえにチームを支えていただいた多数の関係者の方々のお陰であると選手、コーチ共々感謝をしております。

今年の選抜チームは県下３校の選手による構成でした。主体はインターハイで１点差で敗れ大変悔しい思いをしました桜花学園のメンバーによるものであり、大会にかける意気込みは他の選抜選手にも充分に浸透していきました。そのことが選抜チームとしての８月以降の練習においては常に危機感を持ち、モチベーションを高めていくことになり結果に大きく反映したと思います。

練習の技術面の指導は山川コーチを中心に行われ、９月以降は連日ディフェンスに主眼を置いて取り組みました。さらに大会期間中にまで愛知選抜のOGのメンバーにサポーターとしてチームをフォローしていただき一戦毎にまとまりを強くして試合に臨むことができました。

組み合わせ決定後は、激戦の予想されるインターハイの覇者である兵庫戦を乗り切り、一気に頂上まで立ちたいとの思いでした。そこで「全員で10合目に登るぞ」を合い言葉に戦いの場に挑みました。一つの山と考えられていた兵庫戦では、積極的な２－４ディフェンスが機能して選手はのびのび戦い会心のゲームとなりました。準決・決勝は得点力のある熊本、東京であり１点を競う緊迫したゲーム展開でした。しかし、不思議と相手にリードを許しても冷静に状況判断ができ、平常心で戦えた事が良い結果につながったと思います。

ハンドボール王国愛知の、また県下110チームの代表として選抜された12名はこの大会を通して「最後まであきらめないこと」「チームワークの大切さ」「周囲への感謝の気持ち」など多くのものを学ぶことができました。今後進路は別々のものとなりますが、新たな目標を持ち、周囲に対しての恩返しという形で各方面で活躍してもらいたいと思います。

男子46回・女子39回

全日本学生選手権大会（青森県）

開催される

平成15年11月4日～9日まで、青森県（青い森アリーナ、野辺地町立体育館）を会場に表記大会が開催された。男女とも昨年に引き続きの優勝で、男子は日本体育大学（通算16回目）、女子は筑波大学（通算7回目）であった。今回は、地元と男女優勝チームのコメントを掲載致します。詳しい結果はスコアールームに掲載。

地元協会の声

インカレ開催後記

青森県ハンドボール協会理事長　横山　繁
（青森山田高等学校）

平成15年度の栄えある「高松宮記念杯男子第46回・女子第39回全日本学生ハンドボール選手権大会」を無事終えることが出来ました。ここにお世話になりました関係各位にお礼を申し上げると共にご報告致します。

まず、当地でこのようなビッグイベントが開催されたのは、昭和52年の「あすなろ国体」以来実に26年ぶりのことでした。地元協会やハンドボール愛好者ばかりでなく、他の競技団体からも注目を集めることとなりました。地元報道機関への事前プレゼンテーションが効を奏したのか、開催前からテレビ、ラジオ、新聞に取り上げてもらうことが出来ました。会場はオープンしたての県営「青い森アリーナ」3面と、「野辺地町立体育館」1面で行われました。協会役員だけでは手が足りず、保護者会や家族を動員しての運営となりました。また、本県には学生チームが2チームしかなく、準備、競技運営ではフルに活動してもらいました。高校生も良いゲーム、レベルの高いゲームを見ることが出来るとあってよく動き回ってくれました。限られた予算の中、弁当すら出せなかった高校生には頭が下がる思いです。

いくつかのチームは県内の高校チームと調整練習を行うなどの交流もありました。会場ではイベント誌などで見かけたことのある男女のプレーを直接目の当たりにし感動、男女を問わず大きな刺激を受けたようでした。生涯忘れ得ない財産として高校生だけでなく、多くのハンドボールファンの心に残る大会であったと確信しています。

さて、アテネの切符は目前で掠め取られた感がありますが、今大会を見た限りでは北京への道程は明るいような気がしました。全国から選りすぐられた学生達はパワフルかつ個性的でクレバーでした。きっとこの中から、日の丸を背負う選手が数多く出るのだろうと思いました。観客動員の面からは大都市での開催が望ましいのでしょうが、地方にも感動を受ける権利はあります。どうか今後も可能な限り、東京、大阪、愛知などの大都市と交互に地方都市での開催が推進されるように願っています。幸い、次回は沖縄県とのことですが、準備よろしく大会が成功することを祈念致します。

最後になりますが、日本協会、学連、審判員など長期に渡り当地で仕事に当たられた皆様に改めて感謝の意を表し、結びとします。

男子優勝：喜びの声

インカレ優勝をして

日本体育大学男子ハンドボール部主将　飯田健一

11月に青森市で行われた全日本学生選手権大会で２年連続16回目の優勝を飾ることが出来ました。日本一になれたのも指導してくださった松井監督をはじめ、チームを支えて下さった関係者並びにＯＢの皆さんのバックアップがあってこそだと思います。

この一年間を振り返ると東日本インカレが今年のチームを変えたのだと思います。準々決勝での早稲田戦、立ち上がり10対１とリードされ、そのまま一度も追いつくことが出来ずに試合は終わってしまいました。しかしこの敗戦が自分たちが今何をしなければならないかを気付かせてくれたのでした。それからは、日体大の武器であるディフェンスからの速攻を徹底的に強化し、試合で苦しい時こそ走れるチームにしていきました。秋季リーグの途中で宮崎が加わることでチームの中にまとまりが出来ました。東日本で負けたことが今年の日体大をより一層強くし、今回の優勝に繋がったのだと思います。

この大会は５試合とも全部印象に残っています。相手チームも最後の大会ということで全力を注いで向かってくるのでどの試合も気が抜けません。ただ、今まで自分たちがやってきたことを信じ、チーム一丸となって戦いました。

今後の目標としては、常に学生界の頂点に立ち続け、私の高校時代の恩師である滝川先生達が作ったインカレ３連覇という偉業をもう一度成し遂げてもらいたいです。

最後に、今までチームを支えて下さった松井監督、父母の皆様をはじめとする関係者の方々に深く感謝し、これからもご期待に添えるよう頑張りますのでご指導、ご声援をよろしくお願い致します。

女子優勝：喜びの声

インカレ優勝！

筑波大学女子ハンドボール部主将　太田智子

青森で行われた全日本インカレ。私たちは、昨年の先輩方に引き続き、優勝という成績を残すことができました。しかし今回は、関東秋季リーグで東京女子体育大学に負け、今年の目標であった完全優勝の道が絶たれてしまってからの再スタート。今まで何となく勝ち続けていたこともあり、負けて初めて、自分達は何が足りないのか、インカレで優勝するためには何が必要なのかということを一人一人が更に真剣に考えるようになりました。インカレまでの練習は厳しいものでしたが、試合を一つ一つ勝ち進むごとに、チームが一つにまとまっていけたと思います。決勝は、秋季リーグで負けた東京女子体育大学。前日から気持ちが高ぶり、チーム全体が試合に集中していました。私たち４年生のコンディションが万全ではなく、自分たちの気持ちに身体がついていかない歯がゆさもありましたが、最後までコートに立とうという気力と後輩たちの支えから思い切ってプレーすることができたと思います。試合では、前後半共に立ち上がりがよく、また積極的なディフェンスから速攻につなげることができ、安定した攻めができました。本来の筑波大らしい試合ができ、チームで一つのことを成し遂げた、達成感を感じました。この大学４年間で学んだことを今後に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、私たちをご指導してくださった河村先生、水上先生をはじめ、コーチやスタッフの方々、またご支援してくださったＯＧや保護者の方々、本当にありがとうございます。そして、これからも筑波大学ハンドボール部が前進していく姿を暖かく見守っていただければ幸いです。

“沸騰継続” こそ命

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

悔しさの中に新しい方向性を見出した昨年秋、神戸でのアテネ五輪予選。だが、その延長戦が暮れに待っていた。クロアチアでの女子世界選手権。カザフスタンの辞退から出場が巡ってきた。

結果はともかく、こうした世界レベルを体験できることは貴重である。メンバーは多少の入れ替えはあったものの、悔しさを胸に秘めて「あと１点」の重みをコート上にぶつけられたことは、これまでなかったことである。

今年はさっそく２月に男子の世界選手権予選が待ち受ける。クロアチアで見せた女子のすさまじいプレーに、男子も負けてはおれない。そうした男女の身体ごと勝負に挑む姿に、神戸のスタンドに詰め掛けたファンは総立ちで応えてくれた。この熱気を冷めさせるわけにはいくまい。応えるのが日本協会を頂点とした関係者の責務ではなかろうか。

過去、何度もせっかくのチャンスを逃がしてきたが、今回の興奮と熱気は違った。新しいハンドボールへの期待感を感じさせるものであった。

「ハンドボールってすごいんだ」―こんな声が方々から聞こえてきた。「また見たい」と言う興奮を与えたことも確かである。

ファンを惹きつけ、さらにはトリコにするチャンスを決して無駄にしてはいけないし、そうしなければ意味がない。

確かにオリンピックへの出場はまた夢と終わった現実はある。しかし、過去の悔しさとはまた違う「新しい」ものをつくり出したと言ってよかろう。次回の中国・北京五輪（08年）に向け、いい意味での土台になったことは間違いない。それはあのスタンドの熱狂ぶりが表現している。

再スタートへの道をどのように切るかは重要である。国際ハンドボール連盟は予選方式を改正して世界予選方式を導入した。こうしたことにも迅速に対応することが求められるし、中・長期のビジョンをはっきりと打ち出すことも求められる。

沸騰した熱気をどのように次につなぐか。今ここで神戸までの歩みを止めては、何のためだったのか分からなくなってしまう。悲願達成へ早い強化プログラムの作成、実行がなければ、また「熊本」と同じ道のりが待っているような気がしてならない。「継続」こそが命である。

第11回男子アジアハンドボール選手権／第19回男子世界選手権チュニジア大会（2005年）アジア予選

2月10日からカタールで開催される上記大会のメンバーが発表された。今大会の上位3チームに、2005年に開催の第19回男子世界選手権チュニジア大会にアジア代表として参加が決定する。

なお、審判として沖田稔・植村彰ペアがノミネートされた。

＊大会開催期間：2004年2月10日(火)～22日(日)（試合開始は12日(木)から）
＊大会開催地：カタール
＊試合会場：ドーハ・カリフアアリーナ
＊出場国：バーレーン、イラン、ヨルダン、日本、サウジアラビア、クウェート、オマーン、アラブ首長国連邦、カタール
＊組み合わせ：予選ラウンド

Aグループ	Bグループ
クウェート	サウジアラビア
イラン	カタール
日　本	バーレーン
アラブ首長国連邦	ヨルダン
オマーン	

第11回男子アジアハンドボール選手権 第19回男子世界選手権チュニジア大会アジア予選候補メンバー

団長　市原　則之　(財)日本ハンドボール協会強化委員
副団長　緒方　嗣雄　(財)日本ハンドボール協会強化委員
監督　松井　幸嗣　(財)日本ハンドボール協会強化委員
コーチ　玉村　健次　(財)日本ハンドボール協会強化委員
コーチ　矢内　浩　(財)日本ハンドボール協会強化委員
コーチ　冨本　栄次　大同特殊鋼
ドクター　有田　忍　産業医科大学
トレーナー　赤尾　和彦　トレーナーズ･フォー･アスリート

GK　坪根　敏宏　湧永製薬
　　高木　尚　大同特殊鋼
CP　松林　克明　大同特殊鋼
　　野村　広明　トヨタ車体
　　宮﨑　大輔　大崎電気
　　下川　真良　湧永製薬
CP　永島　英明　大崎電気
　　中川　善雄　大崎電気
　　羽賀　太一　ホンダ
　　山口　修　湧永製薬
　　岩本　真典　大崎電気
　　谷口　了　ホンダ
CP　東　俊介　大崎電気
　　田場　裕也　NIMES
　　田中　将　ホンダ熊本
　　阿部　展行　ホンダ
　　太田　芳文　大崎電気

※選手は候補メンバー（1月20日現在）

※松井　幸嗣（まつい　こうじ）プロフィール

★1957年7月6日生　46歳　神奈川県出身
★現　在／日本体育大学　体育学部　体育学科　助教授
　日本体育大学　男子ハンドボール部　監　督
　男子ナショナルU－23　監　督（1992年～）
　男子ナショナルU－19　コーチ（1994年～2000年）
★競技歴／日本体育大学在学中　大学選手権（インカレ）3連覇
　第9回アジア競技大会（ニューデリー）2位（1982年）
　第23回オリンピック競技大会（ロサンゼルス）10位（1984年）
★指導歴／日本体育大学男子ハンドボール部監督（1987年～）
　大学選手権（インカレ）優　勝　8回
　大学選手権（インカレ）準優勝　4回

NTS2003報告

センタートレーニング開催

NTSコーディネーター　栗山雅倫

去る平成15年12月23、24日両日、NTSセンタートレーニングU－19を開催いたしました。

今年度は、toto助成事業のスタート年でもあり、資金面で、これまで以上の対応ができることとなりました。そのことに伴い、昨年まで、徐々に増え始めた引率指導者の皆様の参加数が、今年度は更に多くの先生方のご参加を頂きました。今後も、皆様のご意見を頂きながら、更なる改正を施し、発展を目指したいと思います。宜しくお願いいたします。

以下、順不同で参加者をお知らせします。

U－19・男子

選手名	学校・チーム名
中村卓郎	盛岡南高校
阿部良太	羽後高校
照井諭	湯沢高校
郷古和之	富谷高校
小川雄也	伊奈高校
染谷雄輝	伊奈高校
坂正博	伊奈高校
信太富樹雄	伊奈高校
松信亮平	伊奈高校
太田純二	伊奈高校
関口勝志	法政大学第二高校
林大祐	浦和学院高校
小澤広太	浦和学院高校
小門祐己	浦和学院高校
青井雄介	愛知高校
佐藤智仁	愛知高校
下田好孝	岡崎城西高校
原貴之	四日市工業高校
中田憲治	高岡向陵高校
石戸貴章	氷見高校
大山貴之	小松明峰高校
落合信也	北陸高校
木村雅俊	桃山学院高校
榎本直貴	紀北農芸高校
富田真史	彦根翔陽高校
中川貴嗣	神港高校
東佑三	下松工業高校
野村喜亮	下松工業高校
藤本拓	岩国工業高校
内藤雄貴	岡山理大附高校
中井鮎人	香川中央高校
谷村遼太	香川高松高校
冨賀敏充	岡豊高校
久保有希	久留米工大附高校
川端将一	長崎日大高校
福田義幸	瓊浦高校
松永真治	千原台高校
長瀬圭治	千原台高校
西窪剛志	熊本国府高校
小園諒	小林工業高校
銘苅淳	那覇西高校
名嘉伸明	興南高校
前里卓実	興南高校
米倉章弘	大分国際情報高校

U－19・女子

選手名	学校・チーム名
熊谷美由紀	不来方高校
小笠原明香	不来方高校
小野倫子	盛岡第二高校
峯岸典子	第三女子高校
稲吉志穂理	水海道第二高校
加藤由子	伊奈高校
田崎美波	横浜創英高校
田村玲奈	高崎健康福祉大学高崎高校
武藤彩夏	浦和実業学園高校
田中恵里香	文化女子大附杉並高校
表寺由貴	栃木商業高校
小松亜矢子	日川高校
岡崎加奈子	桜花学園高校
小野淳美	桜花学園高校
萱垣美穂	岐阜県立高山高校
荒木佳子	暁高校
池田紗貴子	静岡県立静岡城北高校
横嶋かおる	高岡向陵高校
石立真悠子	小松市立高校
山下詩穂	小松市立高校
由田千草	小松市立高校
南裕子	洛北高校
中兀栄美	初芝橋本高校
金山真琴	境高校
寺尾和恵	向原高校
八重安由美	香川中央高校
下地ゆいの	那覇西高校
儀間千華子	那覇西高校
棚原ジェイミ	北谷高校
吉田沙織	聖和女子高校
島崎愛弓	松橋高校

【ご参加頂いた指導者の方々（順不同、敬称略）】

山本　力、菅野　肇、岩本　明、大房重則、金原理博、小林弘和、西山　順、山根安彦、葛目憲昭、西田寛文、新井善文、大宮　泉、北林健治、守屋　賢、河先　修、古屋浩幸、近藤哲也、平賀達也、石川直樹、古橋幹夫、元田一好、大城貴重

集中連載❷ スペイン研修報告

前JOC在外研究員
田中　茂

ＦＣバルセロナ紹介

私がスペイン留学中に所属していたFC BARCELONAは1899年10月、一人のスイス国籍を持つハンス・ガンペール氏を中心としたメンバーにより、最初の１歩目はまず選手集めからはじまり、新聞の「ロス・デポルテ」紙にサッカー選手募集の広告を出した事に始まる。こうして集められたメンバーを基にクラブは1899年11月29日に発足した。

1957年からFC BARCELONAの本拠地となった、Estadio Camp Nou。欧州最大の収容人数を誇る、115,000人の観客収容施設。スタジアムの敷地内にはバスケットボール、ハンドボール、ローラーホッケーが使用するPALAUBLAUGRANA体育館、アイススケート場、などがあり多くの人々の憩いの場であり、観光客の観光スポットともなっている。

1）カタルーニャの歴史とFC BARCELONA

カタルーニャ地方は伝統的に民族意識とスペインからの独立心の強い地域で、歴史的には1936年の市民戦争、その後、1975年までフランコ将軍によるマドリードを中心とした独裁政権が続き、フランコ独裁政権が没するまでの間、カタルーニャ等の地方は服従を求められ、文化や言語などに対して非常に厳しい弾圧をうけた。

このような歴史的背景のなか、カタルーニャの人々はフランコ政権下、集会をすることも、カタルーニャ語を話すことも禁じられていた。唯一スタジアムのみ自分たちがカタルーニャ人であることを誇り、大声で母国語（カタルーニャ語）を口にすることができたのである。

そのためFC BARCELONAはカタルーニャの人々の唯一のシンボルであり、カタルーニャ人であることの主張の場としてサッカーを中心としたスポーツが栄え、歴史あるクラブに発展していった。このように、FC BARCELONAがあるカタルーニャ地方は、スペインの中でも非常に特殊な地域だといえる。

現在も過去の歴史に対しての反発からか、スポーツ（FC BARCELONA）に対し武器を持たない、ルールのある戦争を人々はスポーツに求め、カタルーニャ人としての誇りをスペイン全土に示しているように感じる。FC BARCELONAの発展はスペイン（カタルーニャ州）の歴史と非常に密接しながら発展をとげてきた特別なクラブである。

現在クラブが保有しているスポーツは、サッカー・バスケットボール・ハンドボール・ローラーホッケー・フットサル・バレーボール・アイスホッケー・フィギアースケート・野球・陸上・ラグビー・アメリカンフットボールの12競技で総合スポーツクラブへと発展をとげて来た。

2）FC BARCELONAの会員組織

FC BARCELONAの会員組織はソシオ（会員）とアボーノ（年間シート会員）の２種類の会員から成り立っている。（ソシオは約120,000人）

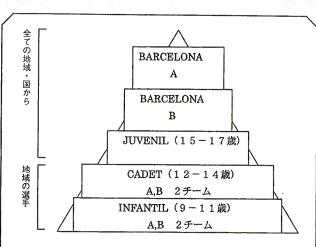
また、アボーノを取得するためにはソシオでなければならない。ソシオとアボーノは共にシーズン毎の更新を行う。

例えば、ソシオの初回入会金は373.23ユーロ（約４万８千円）、年会費124.41ユーロ（１万６千円）となっている。ソシオの特権としては、会長選挙権、試合が無料で見られる（ただし、事前にチケット売り場に行ってチケットを手にしなければならず、人気の対戦カードなどはアボーノと違い手に入れることが困難である）。FC BARCELONA Bの試合が正面スタンド以外の席で見ることができる、毎月会報が送られてくる、バスケット、ハンド、ホッケーの試合を２階席以上で見ることができる、などである。

また、２年前からFC BARCELONAが世界的に人気のあるチームであることに目をつけ、世界のBARCELONAファンの会員組織（GENT DEL BARCA）も出来上がっている。会員には年会費19ユーロ（約2500円）と39ユーロ（約5000円）の２種類があり、それぞれに特権がある。バルサカードがもらえる、バルサホームページのメールアドレスがもらえる、

サッカー、バスケット、ハンド、ホッケー各１試合無料入場券(席が残っている試合のみ)、バルサ博物館１回無料入場券、バルサ１部練習見学、各試合２０％割引、バルサ機関紙など特典がたくさんついている。

このGENT DEL BARCAは２００４年までに世界に１００万人のファンをつくる事を目標にしているという。

3）クラブ構成と選手の育成

FC BARCELONAは９歳のカテゴリーチームから選手を育て上げ、各カテゴリーで入団テストを行い、選手登録する。JUVENIL以上のカテゴリーはスペイン全土から選手をスカウトし、学生の場合はクラブ側が宿舎を用意し、学費を支払いトップ選手を育成している。(生活費含む)

FC BARCELONAは若年層の選手育成に力を入れ、ピラミッド型のクラブ育成システムをとっている。また、トップチームスタッフからINFANTILのスタッフまでが、１週間に１回の割合で選手育成に関するミーティングを行い、一環指導システムを作り上げ、常にトップが必要とする選手を育て上げることを目的としている。

各カテゴリー共にスペインでは常にトップクラスの成績を収めているものの、スタッフが本当に求めているものは、１軍でいかに活躍できる選手を育て上げるかが、勝利することよりも大事な課題、目標である。このことは、本当に徹底された育成理念である。

逆に、選手も成績を（個人の成長）残さなければ簡単に次のシーズンから契約できないシステムになっており若年層からある意味でのプロとしての厳しさを学んでいく環境に立たされる。(成長が見られない選手は、次シーズンでプレーできるチームを探し移籍させる)

また、スペインでは同じクラブ組織内の選手登録をした選手であれば、JUVENILの選手でもJUVENIL以上のカテゴリーでもプレーすることが可能であり、実際に昨シーズンは１７歳の選手２人が１軍で試合に出場して活躍している。これは、実力があれば１軍でもプレーができ、日本のような、高校生は高校生の大会のみ、大学生は大学生の大会にのみに出場できるのとは違い、早い段階から実力にあった試合に出場でき、選手育成にはもっとも重要な環境を与えている。

私がコーチだったBARCELONA Bチームも将来性がある、大型選手が集まって来ていて、体力、パワー系のトレーニングに多くの時間を割いている。

彼らは、練習時間以外に、週３回ウェートトレーニングを行うように指示が出ていて、まずは、１部で戦えるだけの身体づくりが非常に大事な要素となっている。

練習は週５回、２時間以上は決して行わない。週末はリーグ戦の試合日となっている。

練習も、１つの練習に２、３つと違うトレーニング内容がプラスして行われ、練習のスピードは日本の練習と比べられないほどテンポが早い。

例えば、日本でも行われているアップのＧＫの練習のなかに、リバウンドボールに対しての処理や、速攻の戻りなどを組み込んで練習しているため、非常に効率の良い練習となっている。

私が学んだもので重要なものは、練習は試合のための練習でなければならないと言うこと。よく日本でも言われることだが、このことが本当に徹底していると感じた。

短期集中連載：沖縄県のハンドボール①

沖縄ハンドボールの現状

沖縄県ハンドボール協会　三輪一義（琉球大学教育学部）

昨年10月、静岡市で開催された第58回国民体育大会時に開催されました全国理事長会（平成15年12月号既報）で、熊本県と沖縄県の小学生からの強化について報告がなされました。その中から、今号より４回連続で沖縄県の様子を三輪氏に執筆をお願い致しました。平成15年度、沖縄県は昨年末のＪＯＣカップでの男子優勝を含み６種別で全国優勝を果たしています。連載内容は、沖縄ハンドボールの現状（今号）、県協会の組織と「浦添市ハンドボール王国都市宣言」（３月号）、沖縄の小学生ハンドボールの実態（４月号）、沖縄ハンドボールの将来とその課題（５月号）の予定です。

はじめに

2003年12月にＪＯＣ男子沖縄選抜が日本一を成し遂げ、沖縄県勢として小･中･高･一般を合わせて38回目の全国優勝を数えるに至りました。強豪大学・実業団のない純血県･沖縄の全国制覇38回は、ハンドボール関係者だけでなく、沖縄県民全体の誇りともなっています。昭和40年に沖縄県ハンドボール協会が発足して今年で38年、47都道府県のハンドボール協会の中で46番目に日本協会に登録した「最後尾」からのスタートでしたが、これまでの数え切れないほど多くの方々の情熱と努力と理解により、ハンドボール界に留まらず沖縄県スポーツ界においても大きく注目される協会に成長しました。第１回目は県協会会長のお話を借りながら、沖縄ハンドボール界の現状をお伝えしたいと思います。

ハンドボールという花壇に花を咲かそう

沖縄県ハンドボール協会という花壇が創られたのは1965年です。ハンドボールキャリアはないものの情熱あふれる先生方を中心に最初の種が蒔かれました。最初は高校畑に芽がでましたが、1972年に中学校畑に新しい芽生えがあり、1977年には小学校畑に小さな芽が生まれました。1981年には中学校において初めて全国制覇の花が咲きました。花壇らしくなったのは1987年の海邦国体が契機であったのは言うまでもありません。海邦国体では少年男女で大輪の花が２つも咲き、教員チームもその年に力強い花を咲かすことができました。1989年には現在の沖縄ハンドボール界躍進の原動力である小学校で初めてきれいな花が咲きました。その後は毎年のようにあちこちの畑で花が咲くようになり、ここ５年間では21個もの花が咲き乱れております。これにはハンドボールを愛する選手はもちろんのこと、その指導者とご父母の方々が、精魂込めて土を耕し水をやり、日々の手入れを怠らずに育ててきた結果であります。38個の花が咲くに至った原因は多岐に渡ると思われますが、その秘訣は次のようなことではないかと思っています。

【専門家だけが毎日の水をやるのではない】

その学校の教員だけで指導するには限界がありますので、外部コーチや地域の父母が日々の活動を担っているチームが数多く存在します。特にご父母の方々の理解と協力および直接指導が現在の沖縄ハンドボールを支えているといっても過言ではないと思います。このことは、異動のために専門の教員がその学校からいなくなってもチームがなくならないことにもつながっています。現在、小学校のほとんどのチームは、教員ではなく地域の父母がチーム責任者として毎日の指導に当たっているのが現状です。

【自分の畑だけに肥料や水を与えるのではない】

一般･高校･中学校･小学校の指導者が、自分のチームや校種だけにこだわるのではなく、高校の指導者が中学校や小学校の大会に出向いて審判や技術指導をしたり、小学校や中学校の指導者が自分の教え子を中心に進学してからもアドバイスをするなど、「選手に対するもうひとつの一貫指導」が成立しているのも大きな要因ではないでしょうか。選手も自分の巣立ったチームにＯＢ・ＯＧとして練習のない日などに頻繁に訪れます。後輩と一緒に練習しながらアドバイスを送るとともに、恩師から指導を受け、自分を見つめ直すチャンスになっているそうです。ある中学校では、指導者相互の話し合いによって、新１年生の１・２学期は中学校での練習よりも小学校での練習の時間が多いと聞きます。これは中学校では上級生中心の練習にならざるを得

ない状況の中で、新1年生を停滞させないことを目的とすると同時に、6年生の練習相手としても最適であり、お互いの技術向上に大いに役立っている例であると言えます。

【強い苗を花壇に植えることができている】

現在の沖縄ハンドボールを支えているのは小学校チームであることはハンドボール関係者の一致した見解ですが、それぞれの小学校の中でも運動能力の高い子供達がハンドボールクラブの門を叩いてくれているのも強さの秘密かもしれません。年によっても違いますが、ある小学校では校内で最も遠くへボールを投げる子と最も速く走る子がハンドボール部員であることがよくあるそうです。他県と比べた場合、その差はとても大きなものです。高校進学の際に、本土の有力高校に進学することはまずもってありえないことも沖縄の誇りであります。「ハンドボールなら全国優勝ができる」→「いい素材が集まる」→「有能な指導者が磨きをかける」→「校種を問わず全国優勝する」→「ハンドボールをやってみたい」→…、この循環がうまくいっているのも事実ではないでしょうか。

終わりに

これからの沖縄ハンドボールはどのようになっていくのか。たくさんの有能な指導者のもとで、まだまだ全国制覇を続けていくであろうと思いますが、全国優勝だけが協会の発展ではないのも事実です。更なる指導者の育成、審判員の養成、運営組織の充実、振興地域の拡充、生涯スポーツとしての位置づけなど、数多くの必要性が挙げられます。

最後に、県協会所属員すべての気持ちは嘉陽宗陰沖縄県協会会長の次の言葉に集約されています。『何よりも大切に思うのは、どうしたら次代を担う子供たちに夢を与えることができるかであります。ハンドボールを経験した子供たちが、自分にプライドを持って、いろいろなことに対し胸を張って堂々と取り組むことができるようになってもらいたい。そのためにハンドボール協会が何をすべきか。その一念でこれからも努力を続けていきたい』。

次回は沖縄県協会の組織と浦添市ハンドボール王国都市宣言について、お話しさせて頂きます。

沖縄ハンドボール全国制覇38回のあゆみ

		全国小学生大会		全国中学校大会		全国JOC		高校選抜		インターハイ		国体		クラブ選手権	教職員大会	全国マスターズ
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	少年男子	少年女子	男子	男子	女子
昭和	40 (1965)															
	41 (1966)															
	55 (1980)															
	56 (1981)			神森中												
	57 (1982)															
	58 (1983)			安慶田中												
	59 (1984)															
	60 (1985)															
	61 (1986)															
	62 (1987)											選抜	選抜		沖縄教員	
	63 (1988)									小禄高				浦添クラブ		
平成	1 (1989)	宮城小												パームヒルズク		
	2 (1990)	宮城小														
	3 (1991)	沢岻クラブ	宮城小		浦添中											
	4 (1992)															
	5 (1993)	当山小												パームヒルズク		
	6 (1994)	当山小														
	7 (1995)															
	8 (1996)															
	9 (1997)			神森中												
	10 (1998)															
	11 (1999)	当山小						興南高								
	12 (2000)	神森小		仲西中		選抜	選抜									
	13 (2001)		神森小		仲西中								選抜			
	14 (2002)		神森小	浦西中		選抜			陽明高				選抜			マミーズ
	15 (2003)	神森小		神森中		選抜		興南高		興南高						マミーズ

スコアールーム ①

高松宮記念杯 男子第46回・女子第39回 平成15年度全日本学生ハンドボール選手権大会結果

開催期日：平成15年11月5日(水)、6日(木)、7日(金)、8日(土)、9日(日)
会　　場：青森県総合運動公園総合体育館「青い森アリーナ」、野辺地町立体育館

【男　子】

■1回戦

国士舘 36（14－6、22－5）11 松山大
中央大 25（15－9、10－7）16 岐阜大
国武大 24（11－8、13－13）21 愛知大
福岡大 41（15－9、26－6）15 金沢大
早稲田 41（20－13、21－11）24 同志社
中部大 34（15－12、19－10）22 函館大
桃山大 27（11－13、16－6）19 東海大
大同大 23（11－9、12－9）18 明治大
筑波大 29（12－9、17－12）21 東和大
広島大 25（13－6、12－11）17 東学大
日体大 39（15－14、24－6）20 天理大
大経大 37（20－10、17－10）20 横商大
日本大 30（15－8、15－11）19 中京大
名城大 31（15－5、16－14）19 福祉大
順天堂 31（21－10、10－15）25 愛学大
大体大 26（11－9、15－11）20 法政大

■2回戦

国士舘 29（14－6、15－16）22 中央大
福岡大 30（11－14、19－10）24 国武大
中部大 30（13－17、17－7）24 早稲田
桃山大 28（11－16、17－9）25 大同大
筑波大 30（13－10、17－14）24 広島大
日体大 37（17－10、20－9）19 大経大
日本大 30（13－10、17－8）18 名城大
大体大 30（13－5、17－16）21 順天堂

■準々決勝

国士舘 28（15－7、13－11）18 福岡大
中部大 32（13－13、19－10）23 桃山大
日体大 38（18－14、20－12）26 筑波大
日本大 40（12－15、15－12）38 大体大
（3－3延一3－3）
（4－1延二3－4）

■準決勝

国士舘 24（9－8、15－10）18 中部大
日体大 39（18－10、21－22）32 日本大

■決　勝

日体大 42（21－11、21－14）25 国士舘

■順　位

優　勝　日本体育大学（2年連続16回目）
準優勝　国士舘大学
第3位　中部大学・日本大学

■優秀選手賞

GK浦和　克行（日体大4年）
CP飯田　健一（日体大4年）
CP渡久川　兼太（日体大3年）
CP宮崎　大輔（日体大2年）
CP末松　誠（国士舘4年）
CP松尾　茂雄（日本大4年）
CP石黒　将之（中部大4年）

■特別賞

東長濱　秀作（日体大2年）
内田　雄士（日本大2年）

■優秀監督賞

松井　幸嗣（日体大監督）

【女　子】

■1回戦

東海大 24（11－4、13－8）12 中京大
茨城大 20（8－7、12－10）17 天理大
仁女短 16（8－6、8－6）12 琉球大
立命館 24（14－10、10－5）15 秋田大
福祉大 26（12－12、14－10）22 京教大
日女体 31（16－6、15－7）13 名文大
東学大 36（10－8、26－8）16 岡山大
大体大 51（25－8、26－7）15 浅井大

■2回戦

筑波大 28（13－3、15－6）9 東海大
福教大 23（11－8、12－11）19 茨城大
国士舘 32（16－5、16－3）8 仁女短
大教大 33（16－5、17－7）12 立命館
東女体 32（9－8、23－12）20 福祉大
福岡大 22（13－5、9－8）13 日女体
日体大 34（18－5、16－10）15 東学大
武庫川 24（11－7、13－10）17 大体大

■準々決勝

筑波大 39（19－9、20－12）21 福教大
大教大 20（8－7、12－6）13 国士舘

東女体 26（14－9、12－6）15 福岡大

武庫川 25（10－8、15－8）16 日体大

■準決勝

筑波大 28（15－6、13－12）18 大教大

東女体 24（11－10、13－11）21 武庫川

■決　勝

筑波大 29（12－9、17－13）22 東女体

■順　位

優　勝　筑波大学（2年連続7回目）

準優勝　東京女子体育大学

第3位　大阪教育大学・武庫川女子大学

■優秀選手賞

ＣＰ太田　智子（筑波大4年）

ＣＰ谷口　尚代（筑波大3年）

ＣＰ樋口　真央（筑波大1年）

ＣＰ菅野　喜恵（東女体4年）

ＣＰ吉田　祥子（東女体4年）

ＣＰ山住　陽子（大教大4年）

ＣＰ伊藤　亜衣美（武庫川2年）

■特別賞

竹鼻　瑶子（筑波大2年）

山城　梨沙（武庫川4年）

■優秀監督賞

水上　一（筑波大監督）

スコアールーム ②

平成15年度　第55回全日本総合ハンドボール選手権大会

開催期日：平成15年12月17日(水)、18日(木)、19日(金)、20日(土)、21日(日)
会　　場：広島・東区スポーツセンター、中区スポーツセンター

【男　子】

■1回戦

中部大学 31（17－9、14－10）19 HC岡山

日本体育大学 41（20－6、21－10）16 トヨタ自動車

国士舘大学 31（15－13、16－14）27 MAX

香川クラブ 42（21－9、21－6）15 豊田合成

■2回戦

北陸電力 36（13－16、16－13）34 中部大学
（5－1延長2－4）

ホンダ熊本 32（10－17、22－12）29 日本体育大学

トヨタ車体 32（17－15、15－4）19 国士舘大学

アラコ九州 36（18－8、18－14）22 香川クラブ

■3回戦

ホンダ 31（13－10、18－10）20 北陸電力

大崎電気 25（11－11、14－10）21 ホンダ熊本

大同特殊鋼 27（12－9、15－13）22 トヨタ車体

湧永製薬 27（12－10、15－8）18 アラコ九州

■準決勝

ホンダ 28（16－8、12－12）20 大崎電気

湧永製薬 26（13－6、13－11）17 大同特殊鋼

■決　勝

湧永製薬 29（16－13、13－11）24 ホンダ

【女　子】

■1回戦

MIE violet's IRIS 20（10－4、10－11）15 大阪教育大学

東京女子体育大学 25（10－11、15－8）19 HC名古屋

ソニーセミコンダクタ九州 33（15－12、18－11）23 筑波大学

HC岡山 21（13－8、8－11）19 武庫川女子大学

■2回戦

北國銀行 25（12－9、13－7）16 MIE violet's IRIS

シャトレーゼ 29（16－6、13－7）13 東京女子体育大学

オムロン 26（14－8、12－15）23 ソニーセミコンダクタ九州

広島メイプルレッズ 33（16－7、17－10）17 HC岡山

■準決勝

シャトレーゼ 28（16－8、12－10）18 北國銀行

広島メイプルレッズ 28（10－10、12－12）27 オムロン
（2－3延長4－2）

■決　勝

広島メイプルレッズ 27（13－8、14－8）16 シャトレーゼ

ムササビプラクティスシャツ 好評発売中 販売価格2500円（税込）

V-NECK

袖のタイプには3タイプあります

	商品番号	商品番号	商品番号
〈WHITE TYPE〉	JHA-PV-W01	JHA-PV-W02	JHA-PV-W03
〈RED TYPE〉	JHA-PV-R01	JHA-PV-R02	JHA-PV-R03
〈NAVY TYPE〉	JHA-PV-N01	JHA-PV-N02	JHA-PV-N03

ROUND NECK

袖のタイプには3タイプあります

	商品番号	商品番号	商品番号
〈WHITE TYPE〉	JHA-PM-W01	JHA-PM-W02	JHA-PM-W03
〈RED TYPE〉	JHA-PM-R01	JHA-PM-R02	JHA-PM-R03
〈NAVY TYPE〉	JHA-PM-N01	JHA-PM-N02	JHA-PM-N03

BACK PRINT

バックプリントは
全モデル共通です

大会会場、都道府県協会で販売中

昨年３月、日本リーグプレーオフ時に販売開始した「ムササビ・プラクティスシャツ」が好評です。ユニフォームと同じ生地ですので日頃の練習から、ハンドボール会場での応援シャツとしてぴったり。ムササビグッズもキーホルダー、携帯ストラップ、応援マフラー、遠征バッグと拡大中。３月のプレーオフ会場には静岡国体会場で好評のナショナル選手のサイン会も計画中です。

購入のお申し込みは、ＦＡＸにて受け付けております。（ＦＡＸ：048−554−7425）

ご注文～お届けまで

ご注文後５日以内にご入金ください。
ご入金確認後、御指定場所へお届け致します。
※送料は全国一律３００円です。
※お振込み手数料は御負担となります。
※お振込み者名ＦＡＸ用紙記入名でお願いします。
〈振込先〉みずほ銀行 〈支店名〉熊谷支店
〈口　座〉普通　1988381
〈名　義〉株式会社グリーンメイト

ご質問・ご相談

例）予算の関係で入金が遅れますが、商品を〇〇日までにほしいのですが？
例）届いたのですが、サイズが間違ってます！
上記内容などお気軽に御相談下さい。
※ＦＡＸのみにて受け付けます。受付後、担当者から御連絡させて頂きます。

この通信販売は株式会社グリーンメイトが運営しております。

平成15年10月常務理事会

日　時：平成１５年１０月２５日（土）
場　所：静岡グランドホテル中島屋 3F
　　　　ライラック
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事７名、監事２名、参事２名、事務局３名

報告事項

1. アテネオリンピック予選報告

１）強化：①１点の重み、②ホームの有利性、③中近東チーム不参加による大会正常化、④情報分析の活用、⑤サポーターの応援

強化の成果はあったが、韓国に追いついたものの追い越していない。さらに北京に向けて強力なプランを立て強化を継続する必要がある。

補足：分析班の数値化、映像、文などでチームへ、サポート効果はあった。

２）競技：今回の反省を踏まえ、今後の大会に備えマニュアル化をしてゆく。

ＡＨＦの大会運営は参考になったので、今後に活かしたい。

３）財務:まだ決算は終わっていないが、当初予算に比べ、為替損などによりオーバーする予定。

４）総務・国際：ＩＨＦ、ＡＨＦ役員の送迎方法が変更になり予算をオーバーした。イランとの交流があった。

５）広報・企画：テレビ放映（視聴率最大 1.1％)、ムササビカップ大会（応援態勢構築により効果有り)。

６）普及・指導：中身の濃い講習会を２回行い、好評であった。学校体育研究委員会開催し、手引き書の作成、今後の展開などを討議した。ナショナル選手が子供たちと対応をする機会を多く持ち非常に良かった。

７）審判：9/27,28 、指導委員会とタイアップし研修会を行い良かった。

８）その他：組織委員会の反省会は、最終決算を終えた11月に行う予定。

早い段階から動き出せるマニュアルの必要性を感じた。

初期分担をハッキリして行う。

課題が出来た時は､時限を設けて行う。

2. 日本リーグ関係

１）チャレンジリーグ（JHL チームと学生チーム交流戦）を６地域で行う。

２）オールスター戦を３月28日周防市で行う。

３）来年29回日本リーグは、男子１部７チーム、２部５チーム、女子６チーム。

４）チームマネジメントシンポジウムに２名が参加している。チームのマネジメントが重要である。

3. 総務

１）規定整備を行っているので、未提出の所は早急に提出を。EAHA 加盟などにより寄付行為の改訂を行う。修正案を12月初旬原案提出、２月理事会、評議員会で承認予定。４月交付。理事定数の変更も盛り込む。

２）政財界ハンドボール人名辞典

整備中。ハンドボール関係者だけでなく、関心者も含める。がんばれ北京100人会（一人10万円）などの意見も出る。

３）10万人会

アテネでは特別席設定対応をした。今後も色々と検討したい。ＪＨＬ会場での、グッズ販売、受付を設ける。10万人会を資料として示す場合は、競技人口を含めた人数を示す。

4. 財務

監査の件は、滞りなく行われた。

5. 国際

１）東アジア連盟（EAHA)：中国広州でコーチトレーニング研修が行われた。クラブ選手権大会を毎年４、５月の間に①韓国②中国③日本の順で今後行う。ジュニア大会を行う。

２）国際ハンドボール連盟総会：市原副会長、他１名が参加。

３）イランハンドボール連盟との友好関係を今後検討してゆく。

6. マーケティング関係

１）グッズ販売関係

アテネ予選で販売したものを国体で売る。売店は清水中央、北部体育館。

インカレ（青森11月)、総合（広島12月)、プレーオフ（東京３月）でも販売予定。日本リーグ各会場で販売を検討中。ナショナル選手にサイン入れなどの協力を仰ぎ販売促進をする。

7. 普及関係

１）NTS：toto 補助が激減することが判明しており、色々な点で NTS 実施方法について再構築をしなければならない。ブロックトレーニングは従来通り行うが、センタートレーニングを大会との抱き合わせで行う方向で考えてゆく。U-23 、U-19 、U-16 の強化方法の再構築をしていく（１年生の扱いなど)。これらの検討を許可願いたい。了承。

２）地域ハンドボール振興：中学生のクラブチーム化に伴い、登録方法の検討が必要である。小学生チームの実態調査について、午後の全国理事長会で説明をし、今後の小学生チーム設立への参考として貰う予定。ドッヂボールとの連携をしてゆく。

8. 強化関係

強化委員会では、ナショナル監督は、世界選手権アジア予選まで続行の方向である。監督個人は辞意を表明しているので、委員会では引き続き検討をする。ナショナル U-23 、U-19 、U-16 の強化方法見直しを行っていく。ナショナルチーム監督問題などについては、今会議では時間がないので継続審議とする。国体開始式後に時間を取り行う。

9. 競技関係

１）来年度ジャパンオープン大会（女子）チーム数案

２）全日本総合（広島）出場チーム数案

男子は、興南高校について打診をしている。

女子は、協会推薦にインカレ３位２チームを打珍する。

10. 審判関係

１）女子世界選手権（クロアチア）に浜田・小笠原ペア

２）アジア男子クラブリーグ（レバノン）仲田・植村ペア

11. 女性委員会

省略

12. 事務局体制について

１）次長９月末で退職のため、元次長

に週４日嘱託をお願いしている。
２）来年４月より事務局専任職員を採用の予定。

13. 日本車椅子ハンドボール連盟設立支援募金活動のお願い
依頼有り、了承。

＊会の途中でナショナル男女代表監督が挨拶、お礼を述べる。

時間不足で、以下の審議事項は開始式終了後行う予定とし、今会議を終了する。

臨時常務理事会（継続審議）

日　時：平成15年10月26日（日）
場　所：静岡市中央体育館3F会議室
出席者：渡邊会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事５名、監事２名、参事１名

審議事項：ナショナル強化について

強化委員会（11/11）報告：ナショナル監督の処遇として田口男子監督＝任期満了、西窪女史監督＝辞表。委員会方向として、アジア選手権（男子２月、女子７月）を十分視野に入れ、次回オリンピック予選まで続投させる。

日本協会の基本方針：選手は今のメンバーで編成し行くことが良い（強化委員会）。田口監督続投、ヴォルは継続無し。強化部長はプランをハッキリと出す。強化スタッフは、監督に一任する。留学生は企業にお願いしスポンサー負担で出すのもある。留学制度は、コストパフォーマンスがあり効果的である。女子の強化費用が男子に比べ低い。従来のNTSに選ばれない逸材（190cm以上の選手など）を発掘し、センタートレーニングに加える。11月中旬までに検討し、強化部へフィードバックする。

平成15年11月常務理事会

日　時：平成15年11月８日（土）
場　所：NTT麻布セミナーハウス　101号室
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事６名、事務局３名、機関紙１名

会に先立ち、山下副会長から挨拶がなされた。

審議事項

1. 平成15年度第二次補正予算の件
収支予算：協賛金、特別会計からの繰入の項目において補正がなされた。
支出として、人件費、大会補助金、国際関係行事費、マーケティング委員会費、特別会計へ繰入の項目において補正がなされた。
男子ナショナル強化合宿、ジャパンカップ、男女ナショナルチーム遠征、日韓スポーツ交流、スポーツ安全協会委託研究、地域スポーツ指導員養成講習、競技別指導者要請講習、女子ジュニア世界選手権、アテネオリンピックアジア予選、女子ナショナル強化合宿、東アジアジュニア選手権、大会視察等、分析サポート事業、海外拠点等、物品売上事業等の特別会計において補正がなされた。
了承された。

2. 財務計画について
協会の財務状況は厳しい状態が続いている。キャッシュフローをしっかりとし、今後はさらに、しっかりとした財務計画を立てる。

3. 日本スポーツ大賞（読売新聞）について
メイプルレッズ（広島）を推薦する。

4. プロジェクト21
今後さらに前進させる。

5. アテネ予選後の強化体制について
強化委員会から、男子田口氏、女子西窪氏を、再出発として再任する案が提出された。
常務理事会としてこれを了承し、所属長、本人に依頼する。
コーチ、マネージャーの人選については事後とし、ナショナルチームにGMをおくことも検討する。
女子コーチにはイム・オキョン（広島メイプルレッズ）を充てる方向を確認。

6. マーケティングについて
プラクティスシャツ販売促進のため、現行、都道府県、連盟に対して紹介料300円／枚に加え、50枚単位買い上げを前提に500円／枚のバックをすることが提案された。
デザインの変更や、大会会場での販売体制について意見が出された。
詳しい要項、通達方法についてはさらに詰めることで、了承された。

7. 各種国際大会の件
資料により、2004国際大会の日程が示された。
2004.4.14～16　東アジアクラブリーグが韓国で開催され、日本リーグ１位チームを派遣する。

報告事項

1. 叙勲について
安藤純光元専務理事（日本協会推薦）、稲森静岡県協会長（静岡県協会推薦）が、平成15年度秋叙勲されたことが報告された。

2. 全日本総合のレフェリーの件
資料により第55回全日本総合レフェリーが報告された。なお、中東で大会が開催された場合は伸田／植村ペアを派遣し、亀山／水谷ペアを補充する。

3. 女性委員会について
資料により、これからの活動が報告された。

＊市原副会長から挨拶がなされて、閉会する。

平成15年第２回理事会

日　時：平成15年11月８日（土）
場　所：NTT麻布セミナーハウス　101号室
出席者：（敬称略、名簿順）
山下泉副会長、市原則之副会長、大西武三専務理事、川上憲太、角紘昭、江成元伸、斉藤実、緒方嗣雄、石井勝（以上常務理事）、田上敬三、大川洋司、稲生茂、西村亮治、葦原大三、兼子真（代理）、駒林昭三、高山重雄、志々場修二、串野　寛、武田末男、山下勝司、古屋正俊（以上理事）、事務局３名、機関誌１名

議長に山下副会長が選出され、アテネオリンピック予選への協力のお礼と、国体が無事終了したことの報告と、挨拶がなされた。
大西専務理事から、アテネ予選の結果をふまえた今後の方針と決意が述べられ、議事に入る。

審議事項

1. 平成15年度第二次補正予算の件

収支予算：協賛金、特別会計からの繰入の項目において補正がなされた。

支出として、人件費、大会補助金、国際関係行事費、マーケティング委員会費、特別会計へ繰入の項目において補正がなされた。

男子ナショナル強化合宿、ジャパンカップ、男女ナショナルチーム遠征、日韓スポーツ交流、スポーツ安全協会委託研究、地域スポーツ指導員養成講習、競技別指導者養成講習、女子ジュニア世界選手権、アテネオリンピックアジア予選、女子ナショナル強化合宿、東アジアジュニア選手権、大会視察等、分析サポート事業、海外拠点等、物品売上事業等の特別会計において補正がなされた。

了承された。

2. 大会補助金について

JOCジュニアオリンピック、全国中学生大会、全国高校選抜、全日本学生、全国高専、全日本実業団、ジャパンオープン、東西全国クラブ大会の補助金増額の了承。

但し、平成15年度は、JOCジュニア、全国中学生、全国高校選抜のみとする。

ビーチに関しては登録金状況について確認をする。

3. 政財界ＯＢ会について

ハンドボール経験者の中で日本の中枢で活躍されている方々に、ハンドボールの応援団になって頂くべく名簿集めをしている。理事の方に協力依頼をする。

方向性が了承された。

4. プロジェクト21

今後さらに前進させるために、各都道府県協会においても具体的目標を掲げた将来計画を作る方向で了承された。

フォーマットは日本協会で作成し提示する。

5. アテネ予選後の強化体制について

男子田口氏、女子西窪氏を、再出発として再任する案が提出され、了承された。

その他、高校生の海外遠征の負担金についての意見が出された。

高専では、10万人会を母胎としてＯＢ会を組織する方向で動いている。

４年後の北京予選ではオリンピック出場権を勝ち得る方向での、ナショナル強化が確認された。

6. マーケティングについて

プラクティスシャツ販売促進のため、現行、都道府県、連盟に対して紹介料300円／枚に加え、50枚単位で買い上げを前提に500円／枚のバックをすることが提案され、了承された。

ＮＴＳ参加者へのＴシャツ支給とのタイアップ案が示された。

10万人会勧誘にプラクティスシャツを活用する方法例が示された。

7. 全日本総合大会について

資料により、第55回全日本ハンドボール選手権大会の要項が示された。

組み合わせ抽選会は11月17日日本協会で行われる。

8. その他

国体リハーサルとしてのジャパンオープン大会の開催について確認が行われた。

報告事項

1. アテネ予選について

強化担当常務理事よりアテネ予選の報告がなされた。

2. 10万人会について

資料により、10万人会の現状が報告された。

グループ会員の増加を促進するよう依頼が出された。

3. 来年度 toto 減額について

totoの売り上げ減少に伴い、来年度のtoto助成金はさらに厳しくなるであろうことが報告された。

4. 全国理事長会について

国体開催時、静岡で行われた全国理事長会について報告がなされた。

5. 全日本総合のレフェリーについて

資料により第55回全日本総合レフェリーが報告された。なお、中東で大会が開催された場合は仲田／植村ペアを派遣し、亀山／水谷ペアを補充する。

6. 登録 U-15 の件

様々な意見もあるが、平成16年度からU-15のチームについても年度当初に登録する方向で検討中であることが報告された。

7. 規程について

社会的状況変化や、協会内の仕事量増加に伴い寄付行為を含む規程集の見直し作業が平岡常務理事を中心に作業中であることが報告された。

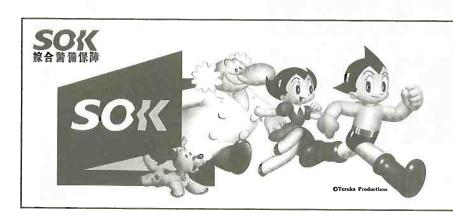
8. その他

安藤純光元専務理事（日本協会推薦）、稲森静岡県協会長（静岡県協会推薦）が、平成15年度秋叙勲されたことが報告された。

審判指導審査委員長の福田英明氏が11/4逝去されたことが報告された。

さらなる大会補助金の見直しが要望された。

U-16、U-23、ナショナルチームの継続性についての意見が出された。

市原副会長から今後の協会の仕事（強化、普及、運営）の重要性と、財政問題について発言がなされ、挨拶後、閉会する。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

■11月会員

【岩手】箱崎敬吉【茨城】榎本雅秀【栃木】坂本定芳【埼玉】岡村昭二、符金誠示、後竹章広【千葉】田中　茂、藤田八郎【東京】田原やよい、佐藤俊男、佐藤映子、蒲生澄子、堀江成典、川上整司【神奈川】南木雅弘【長野】服部博幸【新潟】庭山政幸【富山】吉水慎一、高林　史【福井】山崎信晴、松長　賢、佐々木静夫、角谷喜代重【静岡】清水保雄【愛知】冨田寛治、野田　清【三重】大石博義、大石道子、細野秀男、山川敬止【岐阜】杉山二女代【京都】守本幸三郎、藤本章子【広島】加藤恵誠、樋野村　勉、松本昌之【香川】末澤光夫【愛媛】越智理佳、越智裕介、越智皓平、越智聡郎、加藤誠一【福岡】宮内貴博【長崎】石井弥生

■12月会員

【福島】宗形守敏【千葉】窪田　優【東京】渡邊佳英、岡前義春、浜田浩和、三浦丈治、田村公孝【神奈川】木本一成、加古川正巳【長野】丸山洋子【富山】徳前美智子【石川】伊藤義直【愛知】太田耕治【三重】南　正廣【岐阜】鈴木義久【滋賀】高畠典克【鳥取】萬　隆志【広島】山本伸二、白石　隆、山本伸二、清田憲男【山口】木原　節、中畠昭義【愛媛】井上浩二【熊本】高島協助

【2月の行事予定】

【会議】

常務理事会　2月7日(土)：東京
第3回理事会　2月7日(土)：東京
第2回評議員会　2月21日(土)：東京
事務取扱い責任者会議会議　2月22日(日)：東京

【大会】

日本リーグ：各地
男子アジア選手権　2月10日(火)～22日(日)：カタール

HAND BALL CONTENTS Feb

(登録チームの購読料は登録料に含む)

2003コートの主役

PKCH3-AD　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革

PKCH2-AD　¥4,500

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革

http://www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四四七号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十六年一月二十六日印刷 平成十六年二月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 〇〇一三〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円